

《万叶集》中鹤意象的中国文学体现

湖南师范大学 外国语学院 闫 秀

[摘要] 鹤作为瑞鸟的象征,是中日诗歌咏叹的重要意象之一。从《万叶集》中鹤意象的流变来看,万叶前期作品中鹤多用于叙景,万叶后期作品中鹤多用于表达感情,如爱情、亲情(思子)、友情、乡愁,出现了较多与中国文学的鹤相似的意象。万叶后期作品的中国文学色彩浓厚,作者均具备较高的中国文学素养,无论诗歌理念还是表达形式都有模仿中国文学的痕迹。因此,鹤意象的相似性是《万叶集》对中国文学体现的见证。

[关键词] 万叶集 鹤 意象 中国文学

引 言

鹤姿态端庄,在中日两国都被视为“瑞鸟”,是文学世界中的重要意象。东光治指出“《万叶集》中咏鹤的和歌有46首”^[1]。此外,还有一首疑似咏鹤,即第67首。第67首原文「旅尔之而 物戀之 伎尔 鶴之鳴毛 不所聞有世者 孤悲而死萬思」,原文中「物戀之□鳴毛」有四字脱落。武国祐吉(1948)通过对照古写本,并结合其他用例,提出「物戀しきに鶴が音の」这一观点。随后,《释注》《全注》等注释书也论证赞同该观点。泽泻久孝(1984)在众学说基础上,以诗作时节以及地点为依据,排除雁、鸭的可能,进一步论证了此处脱落的是鹤。因此,本文将第67首也纳入研究对象,咏鹤歌共47首。“鹤”在部分和歌中作为「ツル」的借字使用,例如「流涙止曾金鶴(流るる涙止めぞかねつる)卷二・一七八」。和歌中,歌咏动物的鹤时读作「たづ」,多为假名标记,写作「多津、多都、多豆、多頭」等。这是因为当时“鹤”作为口语使用,其发音「ツル」近似于鹤鸣。「たづ」则作为雅语使用^[2]。

研究过和歌文学中鹤的学者有东光治、胜保

隆、桧垣记代等。关于《万叶集》中的鹤,东光治(1982)认为鹤只用于纯粹的叙景诗。胜保隆(1994)指出歌咏的地方主要是万叶旅人频繁往来的陆海主干路,歌咏的季节是冬季,鹤作为冬季的候鸟象征着旅途的漂泊。因此,万叶中的鹤是纯粹的日本的仙鹤观,没有受到中国的神仙以及祥瑞等思想影响。但是,目前也有部分《万叶集》的研究者指出鹤与中国文学存在联系。桧垣记代(1994)梳理了上代、中古、中世和歌集中的鹤,指出鹤鸣的哀切寄托了对亲友的思念。他还着重指出《白氏文集》对中古之后鹤意象的影响,主要体现两方面,一是从《古今和歌集》开始吟诵的“松鹤长春、龟鹤万寿”,这一类型源自于白居易诗《效陶潜体》“松柏与龟鹤,其寿千年”;二是受到“夜鹤忆子笼中鸣”之影响,夜鹤作为思子之鸟登场和歌世界。《新日本古典文学大系》(以下简称《新大系》,本文所引《万叶集》皆出自《新大系》)指出以下几首诗与中国文学的关系。第592首「闇の夜に 鳴くなる鶴」是受到梁·沈约《夕行闻夜鹤篇》(艺文类聚·玄鹤)的影响所作^[3]。第2138首「鶴がねの 今朝鳴くなへに 雁がねは いづくさしてか 雲隠るらむ」受到汉诗中的魏·应玚《侍五官中郎将建章台集诗》文选二十影响。“朝雁鸣云中,

音响一何哀,问子游何乡。”^[4]第2768首「葦鶴の騒く入江の 白菅の 知らせむためと 言痛かるかも」,“该诗「騒く」的原文「颯」是描述风吹时的拟声词,「颯沓」一词描绘了喧闹的、成群飞过的场面。或许与南朝宋·鲍照的《舞鹤赋》‘颯沓矜顾,迁延迟暮’有关。”^[5]。此外,第1791首「我が子羽裏め天の鶴群」体现了忧子之情,《新大系》引用井上通泰的观点,即该和歌借鉴《史记周本纪》“而弃渠中冰上,飞鸟以其翼覆荐”(*《新大系2》,2000:388*)。因此,《万叶集》中的鹤完全没有受到中国文学影响这一说法存疑,尚有待探究。

基于上述疑问,本文将对《万叶集》中咏鹤的和歌逐一进行考证,对其文学意象进行分析论证,探寻其与中国文学的渊源。具体研究对象与方法如下。

日本文学中鹤的读音为「たづ」,同时因为鹤、鹄同源,「たづ」也可指代鹄。《倭名抄(七)》记载「鶴 四聲字苑云、鶴、^{何各反、都流}似、鹄長喙高脚、唐韻云、鵠、^{音零、楊氏漢語抄云、大豆}鵠鳥、鵠別名也」,指出鹤与鹄的相似性。“鹄”在《倭名抄(七)》记载为「漢語抄云、古布、日本紀私記云、久々比」。《记传》(二十五)中记载

「上代には、鶴をも鵠をも鶴(おほとり)をも共に総て多豆と云ふなり、クグヒ、オホトリなど分れたる名あるは、やや後のことなるべし。」(*泽泻久孝,1984:417*)

磯の崎 漕ぎ廻み行けば 近江の海 八十の港に 鵠さはに鳴く(卷三・二七三)

(《新大系1》,1999:208)

这首和歌中,「鵠」即是「クグヒ」、白鸟。《时代别国语大辞典》指出“在万叶时代,和歌中的鹤不仅仅只是如今的丹顶鹤、锅鹤等,也包括鹄等大型白鸟。”^[6]

上述史料显示,鹤、鹄有深刻的渊源,很多时候就是指代同一事物。因此,中日文学中的鹄也需被列入考察对象。

本文将运用传统的影响研究渊源学研究方法。考斯特斯(Jan Brandt Corstius)在“影响的概念”一文中,如此定义影响:“影响就是他人创作的某一作品变成作者内在世界的一个重要部分,或者成为作者创造性过程的重要因素”^[7]。曹顺庆(2010)指出“渊源学从文学的接受者出发,探寻它

表1 《万叶集》中的咏鹤歌

序号	和歌卷号	和歌	作者	作者(或作歌)时期	鹤的意象
1	3·271	桜田へ 鶴鳴き渡る 年魚市 潟潮干にけらし 鶴鳴き渡る	高市連黒人	万叶前期	叙景
2	3·273	磯の崎 漕ぎ廻み行けば 近江の海 八十の港に 鵠さはに鳴く	高市連黒人	万叶前期	叙景
3	3·324	…朝雲に 鶴は乱れ 夕霧に かはづはさはく 見るごとに 音のみし 泣かゆ 古思へば	山部赤人	万叶后期	叙景
4	3·352	葦辺には 鶴がね鳴きて 湊風 寒く吹くらむ 津乎の 崎はも	若湯座王	万叶前期	叙景
5	6·919	若の浦に 潮満ち来れば 潟をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る	山部赤人	万叶后期	叙景
6	7·1160	難波潟 潮干に立ちて 見渡せば 淡路の島に 鶴渡る見ゆ	佚名	不详	叙景
7	7·1164	潮干れば 共に潟に出で 鳴く鶴の 声遠ざかる 磯回すらしも	佚名	不详	叙景
8	7·1199	藻刈り舟 沖漕ぎ来らし 妹が島 形見の浦に 鶴翔る見ゆ	佚名	不详	叙景
9	15·3595	朝開き 漕ぎ出て来れば 武庫の浦の 潮干の潟に 鶴が声すも	佚名	不详	叙景
10	15·3598	ぬばたまの 夜は明けぬらし 玉の浦に あさりする 鶴 鳴き渡るなり	佚名	不详	叙景
11	15·3642	沖辺より 潮満ち来らし 可良の浦に あさりする 鶴 鳴きて騒ぎぬ	佚名	不详	叙景
12	15·3654	可之布江に 鶴鳴き渡る 志賀の浦に 沖つ白波 立ちし来らしも	佚名	不详	叙景
13	18·4034	奈呉の海に 潮のはや干ば あさりしに 出でむと 鶴は 今そ鳴くなる	田辺史福麻呂(百济系渡来氏族)	万叶后期	叙景
14	1·67	旅にして もの恋ほしきに 鶴が音も 聞こえずありせば 恋ひて死なまし	高安大嶋(渡来人子孙)	万叶前期	爱情
15	3·456	君に恋ひいたもすべなみ 葦鶴の 音のみし泣かゆ 朝夕にして	余明軍	万叶后期	爱情

序号	和歌卷号	和歌	作者	作者(或作歌)时期	鹤的意象
16	4・509	……我妹子に 恋ひつつ居れば 明け暗の 朝霧隠り 鳴く鶴の 音のみし泣かゆ 我が恋ふる 千重の一重も 慰もる 心もありやと……	丹比真人笠麻呂	万叶前期	爱情
17	4・592	闇の夜に 鳴くなる鶴の 外のみにも聞きつつかあらむ 逢ふとはなしに	笠女郎	万叶后期	爱情
18	6・961	湯の原に 鳴く葦鶴は 我がごとく 妹に恋ふれや 時わかず鳴く	大伴旅人	万叶后期	爱情
19	6・1000	児らしあらば 二人聞かむを 沖つ渚に 鳴くなる鶴の 暁の声	守部王	万叶后期	爱情
20	6・1030	妹に恋ひ 吾の松原 見渡せば 潮干の 濁に 鶴鳴き渡る	聖武天皇	万叶后期	爱情
21	6・1062	やすみしし 我が大君の あり通ふ 難波の宮は いさなとり 海片付きて 玉拾ふ 浜辺を 近み 朝はふる 波の音 騒き 夕なぎに 梶の音 聞こゆ 暁の 寝覚に 聞けば 海石の 潮干の むた 浦渚には 千鳥 つま呼び 葦辺には 鶴が音とよむ 見る人の 語りに すれば 聞く人の 見まく 欲りする 御食向かふ 味経の宮は 見れど 飽かぬかも	田辺史福麻呂(百济系渡来氏族)	万叶后期	爱情
22	6・1064	潮干れば 葦辺に 騒く 白鶴の つま呼ぶ声は 宮もとどろに	田辺史福麻呂(百济系渡来氏族)	万叶后期	爱情
23	7・1165	夕なぎに あさりする 鶴 潮満てば 沖波高み 己が妻呼ぶ	佚名	不详	爱情
24	7・1198	あさりすと 磯に住む 鶴 明けされば 浜風寒み 己妻呼ぶも	佚名	不详	爱情
25	8・1453	玉だすき かけぬ時なく 息の緒に 我が思ふ君は うつせみの 世の人なれば 大君の 命恐み 夕されば 鶴がつま呼ぶ 難波瀨 三津の崎より 大舟に ま梶し 貫き 白波の 高き 荒海を 島伝ひ い別れ行かば 留まれる 我は幣引き 斎ひつつ 君をば 遣らむ はや 帰りませ	笠朝臣金村	万叶后期	爱情
26	8・1545	織女の 袖つぐ 三更(よひ)の 五更(あかとき)は 川瀬の 鶴は 鳴かずともよし	湯原王	万叶后期	爱情
27	10・2249	鶴が音の 聞こゆる 田居に 慮りして 我旅なりと 妹に 告げこそ	佚名	不详	爱情
28	10・2269	今夜の 暁ぐたち 鳴く 鶴の 思ひは 過ぎず 恋こそ さまされ	佚名	不详	爱情
29	11・2490	天雲に 翼打ち付けて 飛ぶ 鶴の たづたづ しかも 君しいま かねば	柿本人麻呂	万叶前期	爱情
30	11・2768	葦鶴の 騒く 入江の 白菅の 知らせむためと 言痛かるかも	佚名	不详	爱情
31	11・2805	伊勢の 海ゆ 鳴き来る 鶴の 音どろも 君が 聞こさば 我恋ひ めやも	佚名	不详	爱情
32	14・3522	昨夜こそば 見ると さ寝しか 雲の上ゆ 鳴き行く 鶴の 間遠く 思ほゆ	佚名	不详	爱情
33	14・3523	坂越えて 阿倍の 田面に 居る 鶴の ともしき 君は 明日さへも がも	佚名	不详	爱情
34	15・3626	鶴が 鳴き 葦辺を さして 飛び渡る あなたづたづし ひとり さ寝れば	丹比大夫	万叶后期	爱情
35	15・3627	…葦辺には 鶴鳴き渡る…泣く子 なす 音のみし泣かゆ 海神の 手巻の玉を 家づとに 妹に 遣らむと…	佚名	不详	爱情
36	17・4018	湊風 寒く 吹くらし 奈呉の 江に 偶呼び交し 鶴さはに 鳴く	大伴家持	万叶后期	爱情
37	18・4116	大君の 任きのまにまに 取り持ちて 仕ふる 国の 年の内の 事かたね 持ち 玉梓の 道に出で 立ち 岩根踏み 山越え 野行き 都へに 参るしわが 背を あらたまの 年行き 返り 月重ね 見ぬ日 さまねみ 恋ふるそら 安くし あらねば 霍公鳥 来鳴く 五月の 菖蒲草 蓬かづらき 酒みづき 遊び 慰ぐれど 射水川 雪消 溢りて 逝く水の いや増しにのみ 鶴が 鳴く 奈呉江の 菅の ねも ころに 思ひ 結ばれ 嘆きつつ 吾が 待つ君が 事を はり 帰り まかりて 夏の野の さ 百合の花の 花咲に にふぶに 笑みて 逢はしたる、今日を 始めて 鏡なす かくし 常見む、面 変りせずは	大伴家持	万叶后期	爱情
38	4・760	うち渡す 武田の 原に 鳴く 鶴の 間なく 時なし 我が 恋ふらくは	大伴坂上郎女	万叶后期	亲情(思子)
39	8・1791	旅人の 宿りせむ 野に 霜降らば 我が 子羽 裏め 天の 鶴群	遣唐使 母亲	万叶后期	亲情(思子)
40	4・575	草香江の 入江に 漁る 葦鶴の あな 辿し 友無しにして	大伴旅人	万叶后期	友情
41	1・71	大和恋ひ 眠の 寝らえぬに 心なく この 州崎 回に 鶴鳴く べしや	忍坂部乙麻呂	万叶前期	乡愁

序号	和歌卷号	和歌	作者	作者(或作歌)时期	鹤的意象
42	3·389	島伝ひ 敏馬の崎を 漕ぎ廻れば 大和恋しく 鶴さはに鳴く	佚名	万叶后期	乡愁
43	7·1175	足柄の 箱根飛越え 行鶴の 羨しき見れば 大和し思ほゆ	佚名	不详	乡愁
44	10·2138	鶴がねの 今朝鳴くなへに 雁がねは いづくさしてか 雲隠るらむ	佚名	不详	乡愁
45	20·4398	大君の 命恐み 妻別れ 悲しくはあれど ますらをの 心振り起し 取り装ひ 門出をすれば たらちねの 母かき撫で 若草の 妻は取り付き 平らけく 我れは斎はむ ま幸くて 早帰り来と 真袖もち 涙を拭ひ むせひつつ 言問ひすれば 群鳥の 出で立ちかてに 滞り 顧みし つつ いや遠に 国を来離れ いや高に 山を越え過ぎ 葦が散る 難波に 来居て 夕潮に 船を浮かすゑ 朝なぎに 舳向け漕がむと さもらふと 我が居る時に 春霞 鳥廻に立ちて 鶴がねの 悲しく鳴けば はろはろに 家を思ひ出 負ひ征矢の そよと鳴るまで 嘆きつるかも	大伴家持	万叶后期	乡愁
46	20·4399	海原に 霞たなびき 鶴が音の 悲しき夕は 国返し思ほゆ	大伴家持	万叶后期	乡愁
47	20·4400	家思ふと 眠を寝ず居れば 鶴が鳴く 葦辺も見えず 春の霞に	大伴家持	万叶后期	乡愁

注:作者依据《新日本古典文学大系》资料统计绘制。

的异国文学的源头。具体来说,从文学作品中的思想主题、写作技巧以及艺术形式等出发,需要研究者加以考证和追溯,深入研究这些因素的来源。其次,渊源学必须以实证性研究为根基,是必须建构在翔实的资料考证基础上的实证性文学关系研究,强调对实证性资料的收集、鉴别、分析和论证。基于以上理论,本文将注重实证考察,追根溯源,从《万叶集》中鹤意象的时代流变以及作者等方面入手,探明《万叶集》中吸收的中国文学因素。

1 概述

表1是对咏鹤的47首和歌的统计。

按照鹤的意象进行分类,可以得到鹤意象统计表(见表2)。

按照作者(或作歌)时期分类统计,可以得到鹤的作品时期统计表(见表3)。

从表2、表3可以看出,《万叶集》咏鹤的和歌中,用于叙景的13首,表达爱情的24首,表达亲情(思子)的2首,表达友情的1首,表达乡愁的7首。万叶前期7首,万叶后期22首,不详18首。不难看出,万叶前期鹤相关的和歌较少,且主要用于叙景,万叶后期鹤相关的和歌数量急剧增加,且用于表达爱情、亲情(思子)、友情、乡愁的较多。尤其是爱情相关的和歌,除去创作年代不详者,剩

表2 鹤的意象统计表

鹤的意象	作者(或作歌)时期	数量(分项)	数量(汇总)
叙景	万叶前期	3	13
	万叶后期	3	
	不详	7	
爱情	万叶前期	3	24
	万叶后期	12	
	不详	9	
亲情(思子)	万叶前期	0	2
	万叶后期	2	
	不详	0	
友情	万叶前期	0	1
	万叶后期	1	
	不详	0	
乡愁	万叶前期	1	7
	万叶后期	4	
	不详	2	
共计		47	47

注:作者依据《新日本古典文学大系》资料统计绘制。

表3 鹤的作品时期统计表

作者(或作歌)时期	数量
万叶前期	7
万叶后期	22
不详	18
共计	47

注:作者依据《新日本古典文学大系》资料统计绘制。

下的15首中有12首创作于万叶后期,占绝对比例优势。以下将根据鹤的意象分别举例论述各种鹤之意象与中国诗文的联系。

2 爱情

(1) 卷十七·四〇一八这首和歌作于天平二十年正月二十九日,家持当天漫步奈吴海滨,连作歌四首,其中一首运用了鹤意象。

A. あゆの風[越の俗語に、東の風を「あゆのかぜ」と謂ふ] いたく吹くらし 奈吳の海人の釣する小船 漕ぎ隠る見ゆ(卷十七·四〇一七)

B. 湊風 寒く吹くらし 奈吳の江に 偶呼び交し 鶴さはに鳴く【一に云ふ 鶴騒くなり】(卷十七·四〇一八)

C. 天離る 鄙とも著く ここだくも 繁き恋かも 和ぐる日もなく(卷十七·四〇一九)

D. 越の海の 信濃[浜の名なり]の浜を 行き暮らし 長き春日も 忘れて思へや(卷十七·四〇二〇)

(右の四首は、天平二十年の春正月二十九日、大伴宿禰家持) 《新大系4》,2003:17-171)

B中的“偶”是指配偶,雌雄相互呼唤。该用法可见于三九九三·四〇〇六。

三九九三是大伴池主于天平十九年四月二十六日追和家持的「布勢水海遊覧の賦」所作的长歌。

…射水河 湊の渚鳥 朝なぎに 湯にあさりし 潮満てば 偶呼びかはす…(卷十七·三九九三) 《新大系4》,2003:149-150)

第四〇〇六首和歌是大伴家持作为正税帐使出发去京城时,临行前赠大伴池主的赠别长歌。

…あゆの風 いたくし吹けば みなとには 白波高み 偶呼ぶと 渚鳥は騒く…(卷十七·四〇〇六) 《新大系4》,2003:159)

这两首中「偶呼びかはす」「偶呼ぶと」与四〇

一八的「偶呼び交し鶴多に鳴く」是相同用法。这一通过水鸟表达夫妻恩爱的方式与中国文学相似。中国文学中最早可以追溯到《诗经·周南》“关关雎鸠,在河之洲。”

承接第一首「奈吳の海人の釣する小船」,第二首描写了「妻呼び交わす鶴」,景色错落有致。「妻呼び交わす鶴」的悲鸣自然地勾起了对京城妻子的相思之苦。

(2) 家持的另一组鹤歌作于天平二十年,欢迎友人久米朝臣广绳归来的酒宴上。

A… 逝く水の いや増しにのみ 鶴が鳴く 奈吳江の菅の ねもころに 思ひ結ぼれ 嘆きつつ 吾が待つ君が 事をはり 帰りまかりて…(卷十八·四一一六)

反歌二首

B 去年の秋 相見しまにま 今日見れば 面やめづらし 都方人(卷十八·四一一七)

C かくしても 相見るものを 少なくとも 年月経れば 恋ひしけれやも(卷十八·四一一八)

(《新大系4》,2003:240-243)

「鶴が鳴く 奈吳江の菅の」这两句是「ね」的序。菅の根长又复杂地缠绕在一起,这一序既取同音,又考虑到形状像似。此外,「思ひ結ぼれ 嘆きつつ 吾が待つ君が」这里模仿女性口吻,仿佛送别丈夫的妻子,深刻表达了期盼广绳归来的迫切以及见面后的喜悦之情,用鹤象征了夫妻情义。这也是家持与池主引入交友论的尝试,即六朝时期盛行的用爱情表达友情的方式。此诗的主旨虽是表达对友人的眷恋之情,但是却是通过鹤的爱情意象进行表达的,因此这里鹤的意象依然归入爱情分类。

(3) 旅にして もの恋ほしきに 鶴が音も 聞こえずありせば 恋ひて死なまし(卷一·六七) 《新大系1》,1999:56)

泽泻久孝指出“鹤鸣既能勾起思恋之心,也能慰藉思恋之苦。该诗属于后者”。(泽泻久孝,1984:408)

- (4) 湯の原に 鳴く葦鶴は 我がごとく 妹に恋
ふれや 時わかず 鳴く(卷六・九六一)

(《新大系2》,2000:44)

该诗用鹤鸣表达爱慕之情。作者大伴旅人痛失爱妻后的作品,用反语「や」表达了思念亡妻的情真意切。

- (5) …我妹子に 恋ひつつ居れば 明け暗
の 朝霧隠り 鳴く鶴の 音のみし泣か
ゆ 我が恋ふる 千重の一重も 慰も
る 心もありやと……(卷四・五〇九)

(《新大系1》,1999:334)

该诗歌咏了清晨薄雾中的鹤鸣。用「櫛笥」「鏡」「紐」表达了对妻子的思念。「恋ひつつをれば…音のみし泣かゆ」哀叹了离别之苦。

- (6) 闇の夜に 鳴くなる鶴の 外のみに 聞
きつつかあらむ 逢ふとはなしに(卷四・
五九二)

(《新大系1》,1999:368)

这是笠女郎赠给大伴家持的二十四首恋歌中的一首。暗夜里只能听到鹤的鸣叫,却见不到鹤的影子。表达了只能远远地听心上人消息的感伤之情。《新大系》认为该诗受到了中国诗词的影响,即“余以玄冬脩夜、忽闻阶前有孤鹤鸣。溯寒风而清叫、感凄气而增悲(晋·湛方生《吊鹤文》艺文类聚·玄鹤)”。

在中国古典诗文中,鹤是忠贞爱情的代表,夜鹤因思念伴侣而鸣。例如,南北朝沈约的《夕行闻夜鹤》:“闻夜鹤 夜鹤叫南池 对此孤明月 临风振羽仪 伊吾人之菲薄 无赋命之天爵 抱局促之短怀 随冬春而哀乐 懿海上之惊凫 伤云间之离鹤 离鹤昔未离 迴发天北垂”。(逯钦立,2017)

通过鹤歌咏对妻子的思念之情的和歌共有24首。桧垣记代氏指出其中约70%都是歌咏了黎明前的鹤鸣(桧垣记代,1994:2)。在七八世纪的日本是走婚制,夜晚是夫妻相会的时间段,黎明则意味着离别。因此,和歌中多用黎明时的鹤鸣表达夫妻分别的痛苦。例如以下(7)(8)(9)(10)四首:

- (7) 今夜の 暁ぐたち 鳴く鶴の 思ひは過
ぎず 恋こそまされ(卷十・二二六九)

(《新大系2》,2000:531)

- (8) 見らしあらば 二人聞かむを 沖つ渚に 鳴
くなる鶴の 暁の声(卷六・一〇〇〇)

(《新大系2》,2000:62)

- (9) あさりすと 磯に住む鶴 明けされば
浜風寒み 己妻呼ぶも(卷七・一一九八)

(《新大系2》,2000:141)

- (10) 織女の 袖つぐ三更の 五更は 川瀬の
鶴は 鳴かずともよし(卷八・一五四五)

(《新大系2》,2000:274)

鹤的哀鸣听起来悲切、感伤,用于比喻自己思恋的忧郁。这几首和歌将相思寄托于黎明前的鹤,歌咏了自己与鹤相同的思念恋人的心境。

以上《万叶集》中的鹤都寄托了对妻子的思念之情,这与中国文学的鹤意象非常接近。

在中国文学世界中,鹤是“义鸟”,对于亲情爱情都非常执着,并且知恩图报,常用以指代忠贞的爱情或缠绵的亲情。如《搜神记》中著名的“兰岩双鹤”的故事。荥阳县南百余里,有兰岩山,峭拔千丈,常有双鹤,素羽皦然,日夕偶影翔集。相传云:“昔有夫妇隐此山,数百年,化为双鹤,不绝往来。忽一旦,一鹤为人所害,其一鹤岁常哀鸣。至今响动岩谷,莫知其年岁也。”(于宝,2108)

此外,《渚宫旧事 附补遗》有载,新阳太守将雌鹤和雄鹤分开,雌鹤送给湘东王,雄鹤就飞赴雌鹤身旁,“双鹤相逢,以舞共欣,可见其情”。

李郁华《双鹤铭》曰:“生并栖兮中林,死同穴兮芳岑。相彼羽族兮而贞烈其心,世之不义愧斯禽。”

《艺文类聚》(卷八十四·宝玉部·珠)云:“鹤雌雄双至,各衔明珠以报参焉。”

雌鹤雄鹤一同叼着明珠来,因为古人认为雌鹤雄鹤凡事皆共同进退,是爱情忠贞的代表。

“天地烟煴,百卉含花。鸣鹤交颈,睢鸠相和。”(《文选》卷十五·志中·张平子思玄赋)鹤一边鸣叫,一边把脖子缠绕在一起,形象地描写了鹤夫妻感情深厚、恩爱的情形。

“愿为双鸿鹄，奋翅起高飞。”（《文选》卷二十九）

愿我们化作心心相印的鸿鹄，从此结伴高飞。诗句表达了相伴相依的心愿。

例(7)(8)(9)(10)这几首和歌通过黎明前即将分离的鹤表达夫妻离别的悲伤，在感情表达上与中国文学的“别鹤”意象极为相近。

“别鹤”是中国文学中常见意象。别鹤，乐府琴曲名。《乐府诗集》卷五十八《琴曲歌辞·琴操·别鹤操》曰：别鹤操，商陵牧子所作也。牧子娶妻五年，无子，父母将为之改娶。妻闻之，中夜起，闻鹤声，倚户而悲。牧子闻之，怆然歌曰：“将乖比翼隔天端，山川悠远路漫漫。揽衣不寝食。”（郭茂倩，2018）后人因以为乐章也。此后，别鹤常见于夫妻离别的诗文中。

琴间玉徽调别鹤，别鹤千里别离声。

（南北朝·萧纲·伤离新体诗《艺文类聚》二十九）

翩翩孤雁何所栖，依依别鹤半夜鸣。

（南北朝·萧综·听钟鸣《艺文类聚》三十）

宁作野中之双凫，不愿云间之别鹤。

（南北朝·鲍照·拟行路难十八首其三《玉台新咏》）

飞云日东西，别鹤方楚越。

（南北朝·鲍照·阳岐守风诗《诗纪》五十一）

别鹤寻故侣，联翩辽海间。

（南北朝·吴均·别鹤《乐府诗集》五十八，《诗纪》八十一）

此外，独鹤、寡鹤、双鹤等也常见于表达相思的诗文中。

霜风秋月映楼明，寡鹤偏栖中夜惊。

（南北朝·阮卓·赋得黄鹄一远别诗《艺文类聚》九十）

山烟涵树色，江水映霞晖。

独鹤凌空逝，双凫出浪飞。

（南北朝·何逊·日夕出富阳浦口和朗公诗《艺文类聚》二十七）

双鹤俱起时，徘徊沧海间。

（南北朝·鲍照·代别鹤操《乐府诗集》五十八作别鹤操，《诗纪》五十）

青田松上一黄鹤，相思树下两鸳鸯。

（南北朝·庾信·代人伤往诗二首其一《诗纪》百十八）

如上，在汉诗文中，鹤常用以代表忠贞的爱情、夫妻的离别。鹤也有相似的用法。

南阳栖双鹤，北柳有鸣鹄。（魏晋·曹植·芙蓉池诗）

鸿鹄相随飞，随飞适荒裔。（魏晋·阮籍·咏怀诗）

汉诗文世界中，鹤是以“双鹤”“相随飞”的形象出现，说明在古人心目中，鹤与鹤一样，也是雌雄不离的。

3 亲情

(11) 旅人の 宿りせむ野に 霜降らば 我が
子羽裹め 天の鶴群(卷八・一七九一)

（《新大系2》，2000:389）

这首和歌表述了一位母亲在儿子作为遣唐使临行前所作的祈愿。当时，遣唐使一般通过海路前往大唐，路途艰险，随时有生命危险。故而，歌中饱含了母亲深深的担忧和深沉的爱，是《万叶集》中歌咏亲情的代表作。

井上通泰(1932)指出“「我が子羽裹め天の鶴」这句诗词即使是作歌技巧娴熟的人也不能轻易吟出的诗句。可能是参考了《史记·周本纪》周后稷出生时的情形，‘而弃渠中冰上，飞鸟以其翼覆荐之’。如此深谙中国文学，想必一定不是无名之辈所作。”

(12) うち渡す武田の原に鳴く鶴の間なく時な
し我が恋ふらくは(卷四・七六〇)

（《新大系1》，1999:421）

该首和歌是大伴坂上郎女赠给女儿大孀的。歌咏了思念女儿的心情如同不止的鹤鸣。

在中国文学中，鹤也同样常用以表达母子、父子、手足等亲情。如《江总集》曰：“庐山远法师未出家，善弩射，常于鹤窟射得鹤雏，后复伺鹤母，见将射之，鹤不动翔，观之已死于窠中。疑其爱子致死，破视心肠，皆寸绝，法师于是放弩，发菩萨心。”因丧子而心肠寸断，鹤之母子之情堪为入之楷模。（刘昉，1985）

鹤、凤、鸳鸯、苍鹭和黄鸬，表示人与人之间的五种社会关系。其中，鹤象征着父子关系，因为当大鹤长鸣时，小鹤也跟着鸣叫。鹤是道德轮序中

父鸣子和的象征。《艺文类聚》有“周易曰，鸣鹤在阴，其子和之。”就是父鸣子和的意思。《文选》第十二卷有曰：“鹤子淋渗，群飞侣浴”，描述的是鹤父子共同沐浴的情景。《资治通鉴》中还记载了鹤为保护幼子自拔擎毛的故事，令人吁嗟。不仅如此，大鹤对小鹤爱护有加，有时体现了深厚的“兄弟情”。据《述异记》中记载，将军王仲德出猎，擒获一大一小二鹤，献给皇帝。小鹤嘴为人所裂，大鹤“即含粟哺之，饮辄含水饮之，先令其饱”。后大鹤已学会飞翔，但也并不离去，“于庭中蹇足翟，教其飞翔，六十余日，小者能飞，乃与俱去。”

4 友 情

(13)草香江の 入江に漁る 葦鶴の あな辿
 辿し 友無しにして(卷四・五七五)

(《新大系1》,1999:363)

这是大宰帅大伴旅人答友人沙弥满誓的和歌。「葦鶴」是指芦苇边的鹤。「たづたづしい」是「たどたどしい」的古语，表达了友人不在身旁时不安的心情。

汉诗文中常用鹤代指朋友，歌咏友人不在身边时的孤单落寞。

一为别鹤弄，千里泪沾衣。

(南北朝·吴均·与柳惔相赠答诗六首 其五《艺文类聚》三十一)

别鹤声声远，愁云处处同。

(南北朝·江总·别袁昌州诗二首 其二《艺文类聚》二十九)

用意味夫妻离别的“别鹤”来表达与朋友的离别之苦，强调了分别时的依恋与哀愁，这也体现了六朝时盛行的交友论。

5 乡 愁

(14)A. 防人の情と爲りて思いを陳べて作る
 歌一首(並せて短歌)[左注](右十九日
 兵部少輔大伴宿祢家持作之)

…春霞 島廻に立ちて 鶴がねの 悲しく
 鳴けば はろはろに 家を思ひ出
 負ひ征矢の そよと鳴るまで 嘆きつ

るかも(卷二十・四三九八)

B. 海原に 霞たなびき 鶴が音の 悲
 しき夕は 国辺し思ほゆ(卷二十・四
 三九九)

C. 家思ふと 眠を寝ず居れば 鶴が鳴
 く 葦辺も見えず 春の霞に(卷二
 十・四四〇〇) (《新大系4》,2003:426-428)

这三首长短歌是家持驻守越中时，目睹“防人”远离家乡的痛苦，心生同情而作。这三首的特点是每一首都使用了“鹤的悲鸣”与“春霞”这一组合。

「鶴が音の 悲しき夕は」「鶴が音の 悲しく鳴けば」「鶴が鳴く 葦辺も見えず」，「はろはろに 家を思ひ出」「国辺し思ほゆ」「家思ふと 眠を寝ず居れば」，这几句诗通过鹤的悲鸣，歌咏了离别家乡的悲伤情绪以及对故土无边的思念。

(15)島伝ひ 敏馬の崎を 漕ぎ廻れば 大和恋しく
 鶴さはに鳴く(卷三・三八九)

(《新大系1》,1999:254)

鹤鸣引发了对故乡的思念。之所以怀念大和，是因为听到鹤鸣。结句将诱发此心情的眼前实景归结为感动的对象。

(16)足柄の 箱根飛越え 行鶴の 羨しき見
 れば 大和し思ほゆ(卷七・一一七五)

(《新大系2》,2000:136)

该诗表达了对翔鹤的羡慕，因其能自由在地飞翔，随时可以回到故乡。

中国文学中也有通过鹤表达思乡感情的例子。汉江都王建女细君所作之歌《汉书·西域传下·乌孙国》：“居常土思兮心内伤，愿为黄鹤兮归故乡。”这是一位远嫁他国的和亲公主的故事。她常常思念故土，心中暗暗神伤，希望能变成黄鹤回到故乡。后以“黄鹤”指离乡的游子。“黄鹤一远别，千里顾徘徊……欲展清商曲，念子不得归。俯仰内伤心，泪下不可挥。愿为双黄鹤，送子俱远飞。”(《艺文类聚》二十九)

苏武远离家乡，十年不得归，遂写下游子吟，

希望黄鹄送他回到故乡。

6 结 语

以上探讨了日本上代文学中代表性作品《万叶集》的鹤与中国文学的相似性。《万叶集》中的鹤意象与中国文学有如此多相通之处,绝非巧合,两者之间必然有源流关系。

《万叶集》成书于8世纪后半叶,所收诗歌自4世纪至8世纪中叶长短和歌,多数为奈良年间的作品。推古朝八年(600),日本第一次派遣遣隋使,从600-618年共派遣五次,学习中国的制度与技术。从舒明天皇二年(630)第一次派遣遣唐使,至宇多天皇(894)派遣协议停止,日本共派遣使者十四次,直接学习璀璨的唐朝文化,重点引进中国的政治、天文、历法、制度与文物、书籍等,形成了灿烂的天平文化。在此背景下,中国文学成为日

本贵族间的风雅,《万叶集》更是在吸收中国文学的基础上发展起来。关于《万叶集》与中国文学的交流,小岛宪之(1964)指出“虽说交流,但万叶集处于下游,不会向处于上游的中国文学逆流。故而,从借用、享受、影响的角度来看,《万叶集》受影响的程度成为中心。”因此,考虑到当时的国家实力和文化辐射能力,中国更有可能成为文化源头。

而且,表2、表3显示,万叶后期咏鹤内容丰富、形式多样。无论诗歌理念还是表达形式都有模仿中国文学的痕迹,与中国文学相通的部分较多,中国文学色彩浓厚。万叶后期作者均具备较高的中国文学素养,有受容中国文学的基础和土壤。因此,鹤之意象的相似性是《万叶集》对中国文学积极受容的见证。

[本文为2016年湖南省社科基地项目“中日思乡诗歌的比较研究”(16JD46)的阶段研究成果。项目主持人:闫秀]

注

- [1] 東光治.万葉動物考 続編[M].東京:有明書房,1982:273.
- [2] 澤瀉久孝.万葉集注釈[M].東京:中央公論社,1984:417.
- [3] 佐竹昭広.新日本古典文学大系 万葉集1[M].東京:岩波書店,1999:368.
- [4] 佐竹昭広.新日本古典文学大系 万葉集2[M].東京:岩波書店,2000:498.
- [5] 佐竹昭広.新日本古典文学大系 万葉集3[M].東京:岩波書店,2002:102.
- [6] 時代別国語大辞典・上代編[M].東京:三省堂,1967:428.
- [7] 李玉平.“影响”研究与“互文性”之比较[J].外国文学研究,2004(2):3.

参考文献

- 于宝.搜神记[M].北京:中国书店,2018.
- 刘昉等.旧唐书经籍志[M].北京:中华书局,1985.
- 刘赢.论道教文化中的鹤崇拜现象[J].安徽文学,2015(1).
- 余知古.渚宫旧事 附补遗[M].北京:中华书局,1985.
- 郭茂倩著,夏华等编译.乐府诗集[M].沈阳:万卷出版公司,2018.
- 曹顺庆.比较文学教程[M].北京:高等教育出版社,2010(2).
- 逯钦立.先秦汉魏晋南北朝诗[M].北京:中华书局,2017.
- 大久間喜一郎,森淳司,針原孝之.万葉集歌人事典[M].東京:雄山閣出版,1986.
- 小島憲之.上代日本文学与中国文学[M].塙書房,1964.
- 井上通泰.万葉集雜攷[M].東京:明治書院,1932.
- 中西進.万葉集の比較文学的研究[M].東京:講談社,1995.
- 伊藤博.万葉集全注[M].東京:有斐閣,1983.
- 辰巳正明.万葉集与中国文学[M].東京:笠間書院,2008.
- 佐竹昭広.新日本古典文学大系 万葉集4[M].東京:岩波書店,2003.
- 武田祐吉.万葉集全注[M].東京:改造社,1948.

- 高松寿夫. 上代和歌史の研究[M]. 東京: 新典社研究叢書 183, 2007.
 黒川総三. あゆのかぜ私見[J]. 万葉第八十二号, 1973.
 勝保隆. 万葉集における「鶴」の歌をめぐって(小倉一富先生御退官記念号)[J]. 国語と教育, 1994(19).
 稲岡耕二. 和歌文学大系 万葉集二[M]. 東京: 明治書院, 2015.
 檜垣記代. 和歌における「鶴」[J]. 愛媛国文研究(44), 1994.

作者简介: 闫秀(1981—) 女 满族 湖南师范大学外国语学院讲师 研究方向: 日本文学研究
 联系方式: E-mail: enshu1981@hotmail.com

The Reception in the *Man'yōshū* of Crane in Chinese Literature

Abstract: Crane, known as a lucky bird in both Chinese and Japanese poetry, is an important image to examine. The evolution of the image of crane in the *Man'yōshū* reveals that crane is mainly employed in early works for the purpose of scenery description and that the image of crane in late works bears much similarity to that in Chinese literature, mostly being used for expression of emotions, such as love, family bond (especially memories of one's son), friendship, and homesickness. In the later works of the *Man'yōshū*, the influence of Chinese literature is greatly felt. The poets are equipped with comparatively high accomplishments in Chinese literature, and the traces of their imitating Chinese poetic conceptions and expressive methods can be uncovered in their works. Therefore, the similarity of crane images is the witness to the reception of Chinese literature in the *Man'yōshū*.

Keywords: *Man'yōshū*; crane; image; Chinese literature

Author's Information:

Yan Xiu (Female) Year of Birth: 1981
 Lecturer at Hunan Normal University, China
 Japanese Literature
 Email: enshu1981@hotmail.com

新版书目

书名	书号	作者	出版社	出版时间
日语读写45问	978-7-5628-6045-7	大野晋著, 皮细庚译	华东理工大学出版社	2020.6
新视野日语(入门)(赠音频)	978-7-5628-6152-2	王东升, 李庆祥	华东理工大学出版社	2020.6
新视野日语(基础)(赠音频)	978-7-5628-6150-8	王东升, 李庆祥	华东理工大学出版社	2020.6
大学日语四六级考试指南与真题(第二版·附赠音频与词汇字帖下载)	978-7-5628-6147-8	全国大学日语考试设计组	华东理工大学出版社	2020.6
新完全掌握. 日语能力考试N1高频词汇手册(附赠音频)	978-7-5628-6188-1	石井怜子监修, 守屋和美等著	华东理工大学出版社	2020.6
熊本熊的日语五十音图卡(附赠音频)	978-7-5628-6055-6	熊本熊著	华东理工大学出版社	2020.6